学習内容報告書 フォーマット

学校名	唐津市立大志小学校
授業者	木村　和彦

1.　単元計画

（1）　海の近くに住む鳥について知ろう！（２時間）

（2）　大志小近くにいる野鳥を観察しよう！（４時間）

（3）　見つけた鳥について、おうちの人に知らせよう！（２時間）

1-1.　単元名

海の近くにいる鳥について調べよう！

1-2.　学年

３年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

ふるさと学習の中で、地域の宝物や地域の自慢などについて学習を行ってきている。主体的に地域にかかわる児童の姿をめざし、学習を進めてきている。海の近くに住みながら海の近くにいる野鳥について知っている児童は少なく、日頃生活をしていて偶然野鳥を見かけるものの、種類や特徴などについて、興味を持ち調べている児童は少ない。

そこで、まず、本校は、海の近くにあり、野鳥がたくさんいることについて、気づかせたい。そのために、大志小の近くに住む野鳥についての説明を聞いたり、図鑑で調べたりする時間を設定する。また、実際に野鳥を観察する体験を通して、鳥の特徴や地域の自然についての気づきや問いを持たせる。その際、佐賀県野鳥の会の方に講師を依頼し、野鳥観察の仕方や鳥の特徴などについて、助言を得られる環境を整えたい。さらに、単元末には、調べて分かったことをおうちの方に知らせる活動を設定しまとめとしたい。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

唐津の自然に触れ学びとる活動を通して、海とつながる（tie sea）学びを進める。野鳥観察体験をさせることで、海や地域への愛着を高め、今後自分たちができることへの実践力をつけさせたい。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

（1）　「海と関わる」活動を行うことで、子どもたちは海や自然の素晴らしさに気付き、大事にする気持ちを高めることができる。

（2）　野鳥の観察を通して、季節の移り変わりや鳥が住みやすい環境について考えることができる。

（3）　調べたことなどを表現し、発表したり感想を聞いたりして伝え合う力を育成することができる。

1-7.　単元の展開（全８時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2時間	**海の近くに住む鳥について知ろう！** 〇海の近くに住む鳥の種類や特徴について興味を持つ。 ・海の近くに住む野鳥について話を聞く。 ・興味を持ったことや疑問に思ったことを調べる。（インターネット、図鑑等）	・本校の近くにいる野鳥について、あらかじめ調べ、スライド等を準備する。 ・野鳥図鑑等資料を準備する。 【評価】 地域の鳥や自然について、調べてみようという思いを持つことができたか。（関・意・態）
4時間	**大志小近くにいる野鳥を観察しよう！** 〇学校の近くにいる野鳥を実際に観察しながら、新しい問いを持つ。 ・グループごとに、学校近くの木や建物に止まっている鳥を見つけながら散策する。 ・鳥を見つけ、図鑑で調べる。 ・鳥について分からないこと等、講師の先生に質問する。	・安全に観察できるようグループ編成に考える。 ・道路通行時の安全面について、しっかりと指導を行う。 ・ゲストティーチャー（佐賀野鳥の会の方４名） 【評価】 野鳥観察体験を通して、新たな問いを持ち、積極的に問題を解決することができたか。（思考・判断）
2時間	**見つけた鳥について、おうちの人に知らせよう！** 〇学習のまとめをする。 ・野鳥観察で発見したこと、分かったことなどを画用紙にまとめる。 ・教室に掲示し、評価し合う。また、参観日等で保護者や地域の方に知らせる。	・調べて分かったこと、体験して発見したことなどを中心にまとめるよう助言する。 【評価】 分かったことや自分の考え等をまとめることができたか。（知識・技能、表現）

2.　学習活動の実際

大志小近くにいる野鳥を観察しよう！

2-1.　単元における位置づけ

単元　8　時間中の　3～6　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

野鳥の観察を通して、季節の移り変わりや鳥が住みやすい環境について気づき、新たな問いを持つことができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1．活動について知る。 ・野鳥観察の方法や見られそうな鳥について知る。 ・双眼鏡の使い方を知る。	（準備物） ・双眼鏡（全員分）　・ポケット図鑑（全員分） ・大志小野鳥マップ　・鳥合わせリスト
2．安全面について知る。 ・驚かしたり大声を上げたりすることはマナー違反であることを確認する。	○道路通行時の安全について、確認する。
安全に気をつけ、大志小の近くの野鳥を観察し、いろいろな発見をしよう！	
3．グループに分かれて観察をする。 ・グループごとに時間を少しずらして観察に行く。 ・野鳥の観察をする。 （特徴を知り、メモを取る） 野鳥の名前　色、姿　鳴き声　飛び方　など ・観察には、双眼鏡や望遠鏡を使う。 ・野鳥マップやポケット図鑑も参考にする。	○双眼鏡の持ち方、ピントの合わせ方について説明する。
4．観察学習のまとめをする。 ・発見したことを発表し合う。 ・感想を交流する。	【評価】 野鳥観察体験を通して、新たな問いを持ち、積極的に問題を解決することができたか。（ノート・観察）

3.　今回の活動の自己評価

計画に基づき、成果もあったと思う。今回佐賀野鳥の会の協力を得て、11 月に観察会を実施できた。野鳥の専門家を講師として招聘し、唐津湾・西の浜付近の水辺の鳥について観察し、季節によって観察できる野鳥の違いや鳥の渡りについて学ぶことができた。子ども達の活動はとても意欲的で学級内の発表会を行っていた。またやりたいと意欲を高めていた。日常生活の中で野鳥を見て、調べてみようとする姿が見られたことは大きな成果と考える。昨年度補助金で購入したポケット図鑑を使ってまとめも行った。海鳥を観察して地域の自然の豊かさについて、実感を持たせることができた。

4.　今後の課題

・活動の安全性を高めるため、保護者のボランティアを募り、もっと見守りの人員を確保する。 ・他教科との関連を考え、お礼の手紙等の活動を充実させる。 ・今年度は、時間的な余裕が持てず、野鳥観察を１回しか実施できなかった。児童の関心が高く、複数回実施したら、地域の自然や環境への理解がより深まったと考える。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・季節ごとにみられる野鳥が違うので、直前に確認することが大切である。雨の場合も考えられるので、日程に余裕をもって行った方がよい。 ・事前に野鳥の学習をきちんと行い、興味・関心を持たせ、自主的な活動を促すことが大切である。 ・専門的な知識を有する外部機関（野鳥の会等）の協力が必要で、授業の主旨を説明するなど、連絡調整をしっかりと行っておく。